

●：2つ以上の意見

通いの場・交流の場
地域情報源
行政と法人等と連携した子育て支援

子どもを育てやすい公的サービス

災害時の母子保健対策
情報伝達手法の課題

cafe aonaがある

すこやかやちょこネットなど、
子育てに関する情報の提供源が
増えてきた

すこよかの設備や事業が充実し
ている

行政所有の場に「子育てカ
フェ」があること（コサイト
も）

子ども・若者総合支援事業「こ
こあ」がある（中高生の支援）

相談ができる場所、団体が多く
充実している。

商業・医療・子育て（福祉）施設併設の場

児童館が多い

子育て支援施設「こどもとフ
ラット」

重度障害児対応の可能な学童ク
ラブがある

発達センターがある

障害児対応の学童クラブへの車
両送迎サービスがある

「ゆりかご調布」事業

児童養護施設が2つもある

大きな公園がある

保育園などで、道路の近くであ
るのに急な飛び出しなどへの注
意喚起が少ないところがある

0～2歳の保育園入園が厳しい

幼稚園の入園金の補助額が少ない

保育園空き定員を活用した低年齢児の受入

待機児童対策

子どもを育てやすい環境整備

市内各地域（ベビーカーで行ける
範囲）の児童館で子育てひろばが
ある

公園が多い

遊び場が多い

すこやか、駅近商業施設併設。遊
び場・相談など集約されている

保育園の数が多い

大学病院が複数あり、病院も多い

自然が多い

子ども食堂が多い（子ども食堂
ネットワークもある）

児童館・子育て関連施設の全般的な
老朽化

支援センターが少ない、地域ごと
にあるといい

子ども連れで行ける個室のある飲
食所が欲しい

自転車置き場に子乗せ自転車専用
スペースが欲しい

自転車に乗ったまま食べ物が買え
るお店が欲しい

公園の遊具の数を増やしてほしい

産前からの切れ目ない支援が不足

気軽に相談できる窓口が不足

子育てだけでなく、複合的な問題
を抱える親への支援がどのように展
開されているのか

子育て分野における行政内の縦と横
の関係性、外部との関係はどのよ
うになっているのか

街なかで「子育て中の人たちをサ
ポートしたい」という意識は薄い
（保育園が迷惑、公演で遊ぶ子ども
の声がうるさいと感じる人が多い）

医療費が無料でない（隣接区市は無
料）

相談ができる場所、団体が多く充
実しているが広報しきれていない。知
らない人も多い。

就学前と就学後の情報共有が少ない

18歳の壁

地域に身近な児童館に子育てひ
ろばで交流や相談ができる

相談体制

子育てひろばにて、一般来館した
親が助産師に相談ができるよ
うになっている。

コロナ禍の子どもへの商品券配布

地域振興券がもらえてうれしい

児童虐待防止センターでは虐待防
止の相談・支援体制の充実に取り
組んでいる

ひとり親家庭への支援

デジタル化

コロナ禍で、出産前後に、相談などがしづら
くなっている。そういう機会の創出をオンラインで
増やすことができれば

共働き家庭やひとり親の家庭が増えているので、
行政窓口の開設時間内の利用が難しい。各種申
込みや書類申請などは、デジタル化（アプリなど
いつでも申請可能、データで発行など）を。

予防接種や健診、保育園入園申し込み、その後の
連絡もデジタル化導入が望ましい（一日中結果通
知の郵便を待つ、ということ自体が時代にそぐわ
ないような...）

ゆりかご調布面接(オンライン面接)

防災・フェーズフリー

避難所では子供のいるエリアを分けるなどの配慮
がほしい。

●: 2つ以上の意見

児童の過ごす場 (中・高・大向けを含む)

学校併設の学童が多いのは安心

学童クラブ入会保留児への対応

中高生向けの児童館 (調布市青少年ステーション) がある

学童クラブ・ユーフターの一体的運営

中高生対象施設である青少年ステーションCAPSがある。

すべての学校・その付近にて放課後子供教室事業 (ユーフター) を実施している

放課後の過ごし方として, ユーフター・学童クラブ・児童館と選択ができる環境を提供している

児童館が中高生の居場所になっている

安心・安全を踏まえた施策・コロナ禍における児童等への対応

防災教育の日における、防災教育と地域等との連携

学校だけで抱え込まずアウトソーシングも (ここあ活用)

命の教育

教育機関における縦のつながり (中・高・大) の連携

防災への備え (訓練のマナー化、いざというときにフレキシブルに動けない可能性があるのではないかなど。子供の命を本当に守れる準備があるのか? 東日本大震災時の大川小の事例を踏まえ、訓練も毎年工夫があったほうがよいと思います)

小学生の遊ぶ場が狭まっている (公園でのボール遊び禁止など)

スクールゾーンへの車両進入禁止などの対策

個人情報の保護に囚われすぎないでほしい

防災に関する記事をあまり見かけない

医療費が無料でない (隣接区市は無料)

広報がしきれていない

生徒一人一人へ向き合った学習・対応

児童・生徒の安全・安心への取組

不登校や配慮児童に対する専門的な支援

困難を抱える中高生・大学生のニーズの把握に課題

いじめや不登校への対応 (防止ではなく、起きたときの対応)

不登校対策 (教育相談所, 適応指導教室「太陽の子」, 不登校特例校分教室「はしうち教室」, メンタルフレンド, テラコヤスイッチ)

家庭訪問を再開してほしい (虐待・ネグレクトやヤングケアラーなどの早期発見になる。話をすることで学校への応援団になってもらえる)

自治会や地域団体の担い手

若者 (中高生、成人前の世代) に対するあらゆる支援および施設が不足している

健全育成団体の新たな担い手の不足, 委員の高齢化

児童・生徒数増加による教室整備・一人一人と向き合う時間の確保

学習環境の充実

近年の猛暑対策として他団体に先駆け普通教室のエアコン整備完了

令和2年で小学校体育館・令和3年で中学校体育館でエアコン空調整備が完了

学校施設の老朽化が進んでいる

学校によっては教員の不足が生じている。35人学級対応

不足教室の発生

安全・安心な給食の提供

安全・安心な給食の提供

食育の推進

自校方式のおいしい給食

●：2つ以上の意見

地域からの見守り

子供達に関連する機関との連携がある程度取れているところ	コロナ禍における市内大学生への支援
中・高校生世代対象の施設 (CAPS)	
学校の生徒数が多い (競争意識が芽生え切磋琢磨できる)	
児童館が多い	
子ども・若者総合支援事業「ここあ」	
学校区が横断できる	
地域における自主的なフードバンク・フードパントリーの取組	

スポーツ等を通じた地域交流・学習機会

地域の子供を把握している。継続的に見守れる	親が外国人であり、日本語が話せない児童向けの日本語教室	タブレット導入を機会に、不登校の子どもたちも授業に参加できる配慮をしてほしい=教育を受ける権利
	調和SHCクラブ	学校によって不登校対応の差がある (ステップルームのありなしetc...)
	健全育成委員会が充実	
自然や芸術を地元で学ぶ機会がある	東京2020大会開催地としてのレガシー創出に向けた取組・教育	再出発の支援不足。たとえば高校を中退したその先のフォローがづらい
調布市の取り組み「パラハート」の視点を、積極的に教育に導入している例がある (飛田給小学校)	不登校、引きこもり支援	市内地域によって施設・サービスの偏り
各地域の青少年健全育成団体の全地区合同のソフトボール大会を市主催で開催	夜間学校開設	体育館やプールなど遊べる施設が遠い
	再教育・外国の方の学び	若者 (19歳～) 支援が弱い。中・高校生世代の施設はあるが、その世代で支援が途絶えてしまうのはもったいない。やっている団体も少ない。

その他

タブレットの導入やワクチン接種の対応が早かった
地域振興券がもらえてうれしい
中高生の「他者への思いやり」「異文化の理解」などダイバーシティを育む取組を進める必要がある

デジタル化

通学路への防犯カメラ設置	オンライン授業は教師の習熟度によって差があった
オンライン授業の実施	保護者会も関係性が深まらない状況で、オンラインを活用すべき
タブレット導入により、できることは格段に増えたと思います。しかし学校によって (指導教諭によって) 活用できているところと、それほどでもないところが出ているのではないのでしょうか。そのような形での教育格差が是正されるような取り組みもセットで検討する必要があると考えます。不登校児にも教育機会を提供するきっかけにしてほしい	

●: 2つ以上の意見

行政と法人等と連携した福祉のまちづくり
障害児・者支援情報の発信

行政の制度でカバーしきれない部分を、社協などの事業でカバー。新規事業も多数立ち上がり福祉が充実している。

生活福祉課にて就労支援サポートの窓口を設置している

子ども・若者総合支援事業「ここあ」にて、市3課一体として相談・学習支援・居場所提供事業を実施している。

市報やフリーペーパーなど、障害者支援の記事をよく見かける(障害者支援に力を入れているのがわかる)

他自治体より、地域福祉に関わる専門職(地域福祉コーディネーターや地域支え合う推進員)が多い。

行政の福祉三計画の策定の年度が一緒(表現もそろえられており、連携が取れている)

情報伝達手法
生活困窮家庭、当事者(介護者含む)の実態を踏まえた支援
各窓口の在り方

調布市の福祉サービスが良くわからない

困窮家庭への支援が届きづらい(学生、生理用品配布の事例)

ヤングケアラーへの支援(特に精神面)がない

多摩児相が遠いので手続きを市役所でしてほしい(分駐)

高齢者支援が他の市区町村に比べ少ない(免許返納でタクシーチケットがもらえるなど)。HPが見にくくてわからない(欲しい情報が見つかりにくい)

生活困窮者の相談窓口として「調布市生活ほっとあんしん相談事業」により必要な支援につなげている

地域・公的サービスによる見守り

健康教室や出張系のイベントがある

子ども食堂・大人食堂等の支援や交流サロンのような機会が増えた

ふれあい給食は調布独自

ゴミ袋の無料配布はありがたい

子供家庭課の方の対応がよい

ワクチン接種の対応が早かった

受動喫煙防止条例(子どもの受動喫煙防止)

医師会が地域と近い印象がある

福祉圏域の福祉コーディネーターを軸とした地域課題の解決

みまもっと
地域包括支援センター
医療的ケア対応

ニーズにあった通いの場・交流の場

地域住民同士の繋がりを得られる機会が少ない

認知症や独居の高齢者の居場所がない(歩いて行ける距離のところに、集える場所がほしい)

目に見えない人たちの「孤立」対策が不足(福祉の政策範囲に入らないだけに、孤立している人は多いのではないかと例:非正規の若者)

おむつ補助の対象を広くしてほしい

砧公園にあるインクルーシブや遊具が調布にも欲しい

広報がしきれていない。

住民が交流する場、参加の拡充

共生社会を目指して、より様々な機関が縦ではなく横につながり、強い連携や協働が求められていると感じる

通いの場・交流の場

作業所等連絡会のように、事業所間の横のつながりがある

障害分野においては親の会と施設運営者との距離が近く、ニーズを把握しやすい。

すこやか

ほっとれーる。優先席もありトイレもよい

放課後等デイサービス施設が増えてきた

CSWが増えたことで、地域のニーズをスピーディに吸い上げている

常設の通いの場の設置

ハード・ソフトのバリアフリー対策

甲州街道・旧甲州街道のような調布の大動脈において歩道が狭く、車いす等での通行が困難。調布市の福祉サービスが良くわからない

障害者理解の取り組みが不足(適正かどうかも疑問)

成人した障害者に対する余暇活動ができる場がない

障害者の移動支援のサービスが先細っている

市内特養の入所がかなり困難

ヘルプカードをマークだけにして「調布市」を取ってほしい(首から下げるとはなくかばんや服につけるタイプにしてほしい)

デジタル化

施設の運営などは対人支援業務のため、デジタル化には限度があるが、ICTを利用して可能な限り効率化を進めようとしている

「スマートフォンを使えない」世代への支援は必要だが、いずれはすべての世代の人が使える時代に。使えない人に使い方を教えると同時に、申請代行(信頼性を担保した上で)などのサービスも提供してはどうか。

多文化共生社会に向けた認知方法がアナログ

申請書等の書類入力をデジタル化可能な部分は最大限してほしい

HPが見にくい(欲しい情報が見つかりにくい)

防災・フェーズフリー

2019年の台風では施設やグリーンホールを避難所とするなど、一定の成果が見られた。